令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【美園中】

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	定期テストにおいて、5教科（国語・数学・GS・理科・社会）の当該学年で習得すべき、「知識・技能」に関する問題の正答率を70%以上にする。	⇒	「スタディサプリ」や、「ドリルパーク」等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行う。また、全学年で週末に課題を出す「学習実のチャレ」に取り組み、家庭での学習習慣の定着化と向上を図る。
思考・判断・表現	定期テストにおいて、5教科（国語・数学・GS・理科・社会）の当該学年で習得すべき、「思考・判断・表現」に関する問題の正答率を50%以上にする。	⇒	各教科の学習活動において、主体的・対話的な深い学びを通した問題解決学習を実践していく。特に「STEAMS TIME」では各教科の見方や考え方を働かせた教科横断的な探究活動を実施し、思考力・判断力・表現力を高める。
主体的に学習に取り組む態度	学校評価生徒アンケートにおける「授業に自ら積極的に、また主体的に取り組むことができている。」の質問項目において、肯定的な回答の割合を85%以上にする。	⇒	実社会で新しい価値を生み出すことができる生徒の育成を目指し、全ての教科で探究的な学習や体験活動等を通じて、生徒同士が協働しながら学習を進め、異なる考え方を組み合わせるなど、よりよい学びを生み出せる時間を設定する。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	特に国語では、「文脈に即して漢字を正しく書く力」に課題が挙げられたため、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するようにしていく。また数学では、今回の結果から特に図形への理解が課題として挙げられため、直線や平面の位置関係を考察する活動を重視したい。
思考・判断・表現	英語の「書くこと」の領域において課題が見られた。無回答率も高く、自分が考えたことや感じたことを、その理由を交えて書くことが苦手な生徒が多いことが考えられる。事実や自分の考え、気持ちなどを「整理」することや、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書く活動を重視したい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は昨年度よりも1．9pt上がっていた。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	1学期の策に加え、各教科において根拠をもとに自分の考えをまとめたり説明したりする時間を意図的に設定する。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

中1	R5年度の市学力状況調査の結果より、特に「思考・判断・表現」において、どの教科も市の正答率より下回っていることが分かった。「知識・技能」において、系統性でつながりのある内容について、既習を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていく。さらに、「思考・判断・表現」において生徒が獲得した「知識・技能」を活用して課題を解決する活動において、主体的・対話的で深い学びの視点から、再度授業改善に努めていく。
中2	R5年度の市学力状況調査の結果より、無解答率の割合も低かったことから、自分の考えをもたせ、学びの足跡を残す指導を積み重ねた成果がでたと考える。今後も教科等横断的に、「知識・技能」の定着を図り、「思考・判断・表現」において探究的な学びを行い、複数の情報の中から必要な情報を見付ける活動や、異なる考え方をもった人と協議して解決策を見出す活動に取組等の活動を深めていき、子どもたちの学力を高めていきたい。
中3	「自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」及び「学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合がどちらも二年生の時よりも高い結果であり、探究的な学びや主体的に学習に取り組む様子が見られるようになった。

⑤ 目標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能	自主的に学習を進める取組を各教科や学年で更なる強化した。定期テストにおいて、5教科（国語・数学・GS・理科・社会）の当該学年で習得すべき、「知識・技能」に関する問題の正答率が目標の70%に対し9割4分の達成となった。	A
思考・判断・表現	「STEAMS TIME」を中心として各教科で、主体的対話的で深い学びを通した問題解決的な学習活動に努めた。定期テストにおいて、5教科（国語・数学・GS・理科・社会）の当該学年で習得すべき、「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が、目標の50%に対し65.9%の達成となった。	A
主体的に学習に取り組む態度	実社会で新しい価値を生み出すことができる生徒の育成を目指し、全ての教科で探究的な学習や体験活動等を通じて、生徒同士が協働しながら学習を進めた。学校評価生徒アンケートで「授業に自ら積極的に、また主体的に取り組むことができている」の質問項目について、肯定的な回答の割合が目標の85%に対し、88%の達成となった。	A

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（概ね達成） C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	目標の定期テスト（5教科の正答率）70%以上の達成に向け、自主学習（実のチャレ、スタディサプリ、ドリルパーク等）を進める取組の更なる強化を目指したい。知識・技能の定着が低い生徒への支援や、個々の習熟度に合わせた内容を繰り返し学習できるような個別最適化された支援を目指し、取組を進めていきたい。
思考・判断・表現	目標の定期テスト（5教科の正答率）50%以上の維持または更なる向上を目指し、各教科の学習内容と、「STEAMS TIMEの活動」との関連をより意識し、教科等横断的な探究活動のより一層の充実を目指したい。身に着けた知識・技能を土台とし、段階的な思考力・判断力・表現力の育成を図っていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	「授業に自ら積極的に、また主体的に取り組むことができている（学校評価のアンケート）」の質問項目について、肯定的な回答の割合の85%以上の維持または更なる向上を目指し、全ての教科で探究的な学習や体験活動等をとおし、生徒同士が協働し、その中で自分の考えたことを堂々と表現し、実社会で新しい価値を生み出すことができる生徒の育成を目指す。